



大会の魅力をも3分間に詰め込んだPR動画を公開中！  
「四国コンテンツ映像フェスタ2022」最優秀賞受賞作品

はじける我らの『書道パフォーマンス甲子園愛』

大会まで3か月を切った4月下旬  
東京都千代田区神保町にある集英社ビルに集まっていたのは、書道パフォーマンス甲子園に魅せられたお二人  
それぞれの分野でトップランナーとして活躍されているお二人に、書道パフォーマンス甲子園について語り合っていました。

書道と漫画は同じ？

**大西恒平**です。週刊少年ジャンプ編集部配属され23年目になります。現在はジャンプ作品のアニメ化や映画化などのメディア展開を統括しています。四国中央市出身です。

**青柳美扇**です。書道パフォーマンスや筆文字ロゴのデザイン、昨年から書道パフォーマンス甲子園のアンバサダーを務めています。

**大西** 初めて青柳さんの書道パフォーマンスを拝見したときは衝撃を受けました。僕が書道に対して持っていたイメージの逆を行くアグレッシブな動き。まさに書道の革命だと思いました。

**青柳** ありがとうございます。私もワンピースの映画見ました！感動しました。

**大西** ありがとうございます。作品は我々編集者が作家と一緒に協力して作っていきます。僕がワンピースの担当をしていたときは、作家と電話で10時間以上話をし、映画のシナリオを完成させたりもしました。

**青柳** 作家が考える方向性を変えたりすることもある？

**大西** 毎週の連載が何よりの練習です。でも上手くなりたいという気持ちが先になければ、やはり上達はしません。書道も漫画も同じですね。

**青春！**  
**書道パフォーマンス甲子園**

**大西** 昨年、初めて生で拝見させていただきました。演技やダンスもあり、書道の枠を超えた総合芸術だなと感じました。他のものには例えられない面白さがあります。終了後のインタビュで、仲間や恩師に向けて選手たちが語る、素直で純粋な気持ちには心が洗われました。泣いちゃいますね、あれは。

**青柳** 本当にキラキラ輝いていました。ひたすら素直で真つすぐ。そして、筆先から伝わってくる研鑽力の高さを。華やかな演技の根底にある血と涙と努力が目に見えて涙が出ました。

**大西** 高校生たちの「伝えたい」という、純粋で混じり気のない気持ちが、見る

**大西** もちろんあります。作家が「こっちのキャラクターを勝たせたい」と当初考えていたとしても「いや、先の展開を踏まえてこっちを勝たせよう」といったように、打ち合わせを重ねて方向性を決めていきます。

**青柳** それを毎週ですか？

**大西** そうです。地獄のようなスケジュールですよ（笑）。特にジャンプは若い作家が多いので、編集者が導いていくという側面も大きいんです。

**青柳** まさに二人三脚ですね。

**大西** 国立競技場での書道パフォーマンス凄かったです。真白なパネルに書かれましたが、いつも下書きはされないのですか？

**青柳** はい。しません。

**大西** 間違ったら？

**青柳** 一巻の終わり。失敗は許されません。練習と度胸と根性です（笑）。書道に終わりはありません。でも、1年前に書いた自分の字を見て、成長を感じることが出来る。書道の魅力の一つだと思います。漫画も1巻より最終巻の方が格段に上手になっっていますよね？

方にちゃんと伝わってきた。文化系の活動のほすなの、こんなにも熱く情熱的なんだって、感動を覚えました。

**青柳** 「高校生」って人生の中でも重要な時期だと思うんです。その時に、選手やスタッフとしてこんなに素敵な大会に参加できるというのは、何ものにも代え難い経験だと思います。挑戦と失敗を繰り返しながら夢に向かって真つすぐ進む。泥臭くてそして熱い。まさに青春です。

**大西** でも本人たちは「これが青春だ」と分らずにやっている。それが良いですよ。大人になると色々なものが邪魔をして、純粋に何かに打ち込むということが難しくなります。「甲子園」を目指せるのは高校生の今だけ。だからこそ、一心に打ち込んで欲しいですね。

**青柳** 私の高校には書道部がありませんでした。今思えば、大学時代に書道部を盛り上げようと四苦八苦していたことが、青春だったんだと思います。あの時間がなければ、書道パフォーマンス

青柳 美扇さん BISEN AOYAGI

書道パフォーマンス甲子園アンバサダー  
書道家、アーティスト  
大阪府出身

Instagram、Twitterの総フォロワー数が13万人を超える書道界きってのインフルエンサー。  
国立競技場のこけら落とし「第99回天皇杯」のオープニングアクトなど、国内外で書道パフォーマンスを披露。  
MBS「情熱大陸」、NHK Eテレ「にほんごであそぼ」、日本テレビ「踊るさんま御殿」など出演番組多数。  
今、最も活躍する書道家の1人。

大西 恒平さん KOHEI OHNISHI

集英社「週刊少年ジャンプ」  
メディアプロデュースチーム編集長  
四国中央市出身

2001年 集英社入社。「週刊少年ジャンプ」編集部配属。同編集部主任、副編集長を経て2020年7月から現職。  
担当作品は、森田まさのり「ROOKIES」、空知英秋「銀魂」、尾田栄一郎「ONE PIECE」、大石浩二「いぬまるだっし」など多数。  
現在、メディアプロデュースチーム編集長として、ジャンプ作品のメディアミックス業務を統括する。



「何ものにも  
代え難い経験」



BISEN AOYAGI

「一瞬一瞬が  
一生の財産」



KOHEI OHNISHI

マンスに出会ってはいなければ、今の私は無かったはずです。

**大西** 僕は四国の田舎まちに住んでいたんで(笑)、高校時代は本を読んだり、のんびり色んなことを考えたりしてましたね。大学時代はバックパックを背負って海外へ行き、さまざまなものを見ました。そのときにしか経験できないことがある。それをすることが「青春」だと思います。

はじける我らの  
『書道愛』

**青柳** 今大会のキャッチコピー「はじける我らの『書道愛』」は、初めて聞いたときに「書道パフォーマンス甲子園そのものだ!」と思いました。青春パワー全開で素敵です。

**大西** コロナ禍で我慢を強いられていた分、思う存分はじめて欲しいですね。キャッチコピーを表現した

ポスター(表紙参照。25ページに関連記事)も素晴らしいかったですね。意図的に後ろ姿で描かれているので、選手が自分自身と重ね合わせられる良いデザインになっています。高校生の大会のポスターを高校生自らが描き、高校生だけで決めるというのはとても素晴らしいことですね。

**青柳** 先日、大会の運営を担う高校生たちの会議に参加させてもらいました。発

れになりながら書いている選手の姿を見ると、気持ち良さそうだなと感じます。

■日本一、そして唯一

**青柳** 私は書道パフォーマンス甲子園で四国中央市を知りました。日本一の紙のまち、紙産業のまちでありながら、自然がとても豊かなところが素敵です。

**大西** 「海と山しかない」と昔は思っていました(笑)。で

も久しぶりに帰省して近所の坂道から遠くに海が見えたりすると、素直にキレイだなって思えたりするんです。山と海が迫ってくる風景を、当時は窮屈に感じて早く外に出たいなって思ったりしてたんですけどね。

**青柳** その山と海が紙産業の発展につながっているとお聞きしました。

**大西** 住みやすくて、何より住んでいる人たちが楽しそうですよ。これからも

下手に都会を目指したりせず、オンリーワンの価値を宣伝して欲しいです。実は漫画家も地方出身者が多いんです。色んなものが簡単に手に入らないからこそ、優れた想像力が育まれるのでしょね。

**青柳** 「日本一の紙のまち」が「書道パフォーマンス甲子園の聖地」であることを世界中に発信して欲しいです。私もアンバサダーとして頑張ります!

言するのも取り仕切るのも高校生。大人が仕切らないからめっちゃ時間がかかるのですが(笑)、高校生たちが交わす自由な意見と、それをそっと見守る事務局職員への愛に感動しました。

**大西** 若者の感性は僕たちを超えてきます。こちらが当初面白くないと思った漫画がその後ヒットして、やはり若者の感性が正しかったことが分かるというようなことも多いです。新しい何かを生み出そうとするときは、大人たちはまず自分を否定して、若者の感性を信じることから始めることが大切だと思います。

**青柳** そう思います。選手のみなさんには、自分の感性を信じて、どんどん新しいことにチャレンジしてもらいたいんです。そして多くの方にそのパフォーマンスを見てもらいたいです。一度見れば、必ず大会の素晴らしさが伝わるはずですよ。

**大西** 本当にそうですね。見れば絶対面白いし、自分でもやってみたくなると思っています。大きな筆で墨まみ

さあ、夢の舞台へ

**青柳** 高校生のみなさん、夢の舞台が近づいてきました。十分準備して全力で楽しんでください。私もスタッフのみなさんと一丸となって、大会を盛り上げていきます。

頑張りますよ!

**大西** 漫画を作る上で大切なことが二つあります。一つは「自分に伝えたい何かがある」こと、もう一つは「それが相手に伝わる」ことです。

この二つが揃って初めてヒット作品は生まれます。それは書道パフォーマンスも同じではないでしょうか。自分たちが何を伝えたいか、そしてそれを伝えるためにどんな演技をするのか。それをギリギリまで見つめ続けることが大切だと思います。選手のみなさんは気付いていないかもしれませんが、大会の一瞬一瞬は一生の財産になります。悔いを残さないよう、思いっきりはじけてください!



大西編集長、美扇さん、対談場所をご提供いただいた集英社様、ありがとうございました!

問い合わせ先  
書道パフォーマンス甲子園振興室  
☎ 0896-28-6037  
本大会や新春競書大会の開催など、書道文化の醸成と「日本一の紙のまち」のPRを行っています。

第16回  
書道パフォーマンス  
甲子園  
開催迫る!

今年31都府県から  
107校がエントリー!!  
栄冠に輝くのは!?

6月14日(水)  
本戦出場校発表!  
YouTube生配信!  
青柳美扇さん出席!

7月22日(土)  
モニタメント  
除幕式

7月23日(日)  
書道パフォーマンス  
甲子園本戦!  
一般観覧復活!(無料)  
コスモスチャンネルで  
全編放送予定!